

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都調布市小島町 2-53-5
園名	ベネッセ ひまわり保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然を感じる「色・彩り」

<テーマの設定理由>

未来を担う子どもたちが将来守っていくべき「自然」とは何か？を考えてもらうため、子ども会議の中で話し合ってもらったところ、いろいろなワードが大混乱となった。保育者と一緒に整理すると、子どもたちにとっての「自然」とは、木がたくさんあって、木、葉っぱ、花や風のにおいがして虫がいて、鳥がいて、動物がいる調布にはない「森」という場所となった。そこに一人の子どもが、「色は何色かなあ」から始まった一言から色、彩りに変化していく話し合いがもたれた。森から彩りに話が変わっていく中で、「色・彩り」に興味をもったことで大混乱していたワードが子どもたちの議論の流れから自然・森のイメージが繋がりはじめた。一人ひとりの主体性を尊重しながら自分が思う「森・色・彩り」を表現に変え楽しみたいと考えた。自分の考えた「森・色・彩り」がどのような自然となって表現されるのか、また自然から広がった子どもたちの興味をさらに広げさせ「自然」はすごい、面白い、といった自然への想いや、心を育む機会としたい。

2. 活動スケジュール

- | | |
|------------|--|
| 2025年6月 | ・絵本、図鑑から知る森のイメージを子ども会議で話し合う
・表現1 「木を描いてみよう！～絵本・図鑑から木を知る～」 |
| 2025年7月 | ・表現2 「いろいろな素材を使って色に触れあおう～色を創る～」 |
| 2025年8月 | ・表現3 「色の変化を楽しもう！～色と彩りの違いって？～」 |
| 2025年11月 | ・遠足 「森を歩いて自然の色への気付きや興味を広げてみよう」 |
| 2025年12～3月 | 「色はまだまだ続く！冬の森って？春の森って？」
「自然を感じて色・彩りを子ども会議で振り返り」 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- | |
|-------------------------------------|
| ・子どもたちがいつでも取り出せる素材棚（ブリコラージュのコーナー設定） |
| ・絵画に関連する道具（画板・クレパス・筆等） |
| ・子ども用カメラ |
| ・絵本、図鑑 |
| ・双眼鏡 |
| ・遠足費用（バス代 他） |

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・不思議な絵本の世界 ストーリーのない絵本から一人ひとりの物語を作り絵画で表現する
- ・七夕まつりをとおして、短冊の色を作ってみる
- ・色の研究から見る色の豊富な種類を知り、作ってみる
- ・秋の自然物を使い季節を感じ、森への興味を引き出してみる
- ・森を散策しながら自然にはたくさん色があることや彩りで調和されていることを知り森や自然の華やかさに気づく
- ・見たそのものを、画像に残し、絵画や造形で表現してみる
- ・これから来る季節（冬、春）を知り、イメージを制作してみる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

色や彩りをとおして自然を感じるテーマは、子どもたちにとって発見や広がりやの体感ができる機会であった。16色クレパスから見る色の他にたくさん色を知り、そこから好きな色を絵具で作ってみるといった経験は、まさに子どもにとって未知の世界であった。イメージして作る色がその後森散策に繋がり、その色や彩りを双眼鏡やカメラで発見する姿は子どもたち同士、子どもと保育者で喜び合い、人間関係が深まる一助にもなった。そういった経験を繰り返して子どもたちなりの自然がイメージとして出来上がったようである。それらの感情や創作意欲を広げ冬、春の自然な表現を様々な素材の中から個性豊かな表現することを期待している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

保育者が仕掛けた環境によって、子どもたち自身の個性豊かな表現があることを知り、それを丁寧に一人ひとり関わってきた。保育者がイメージしていた表現以上の表現が特に制作や絵画に現れその作品一つひとつに力強さを感じ、保育園の理念から繋がった活動となった。経験が浅い保育者の振り返りからは「子どもが考え、やりたい表現で活動することが楽しかった」と、子どもだけではなく、保育者も一緒に楽しみながら行ってきた保育のおもしろさは子どもと一緒に！の経験であった。今回楽しんで臨んだ色・彩りから見る自然を通して、自然の楽しさ、だから大事に、一人ひとりが意識をもって、大人になっても自然を大切にその想いを継続してもらいたい。